学会だより

天体写真スライド集「遙かなる宇宙へ」頒布のお知らせ

日本天文学会では，教育用および一般向けに，天体写真スライド集「遙かなる宇宙へ」を制作しましたので，ご希望の方に頒布いたします．購入ご希望の方は，送付宛先と住所，購入希望の旨を書き添えて下記までお申し込み下さい．おりかえし，スライド集と振込用紙をお送りしますので送料(実費)を含めてお支払い下さい．

◇天体写真スライド集「遙かなる宇宙へ」
　監修頒布　日本天文学会
　資料提供　東京大学理学部木曽観測所
　制作編集　畑　英利，樽沢賢一
　頒布価格　1セット70枚　16,000円*(送料別)
　お申し込み先：〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
　　国立天文台内　日本天文学会

「遙かなる宇宙へ」は全部で70枚のスライドと，教育用解説とからなる天体写真スライド集です．教材用として，小中学校はもちろん，高等学校，大学，さらには社会教育用にも適しています．また一般の観賞用としても楽しめます．

このスライド集は，東京大学木曽観測所のシュミット望遠鏡にカラーフィルムをつけて撮影した，散光星雲，散開星団，球状星団，銀河などを中心にして編集してあります．木曽観測所のシュミット望遠鏡は，口径 105 cm，焦点距離 3300 mm の巨大な望遠カメラですが，写野が6度角と広いので，散光星雲やアンドロメダ銀河などの広がった天体でも一枚のスライドに収めることができます．また，各種の小型カメラや全天カメラを駆使して撮影した写真もとりいれ，対象をできるだけ広く設定しました．このスライド集によって宇宙がいかに多彩で神秘的なものかを，感動をもって多数の人々に伝えることができると確信しています．

70枚のスライドは内容により10枚づつ7部に分かれており，それぞれの内容は以下のようになっています．

第1部は「木曽から宇宙へ」というタイトルで，星空への導入がテーマです．木曽御岳に沈む星々に続き，ハレー彗星，オリオン星雲，馬頭星雲（表紙参照），ばら星雲，プレアデス星団，アンドロメダ銀河（表紙参照）など馴染み深い天体のスライドが続きます．

第2部は「木曽観測所と星たち」というテーマで，基礎知識の教育用です．シュミット望遠鏡のスライドや，東西南北各天の星の動き（表紙参照），天の川などのスライドがあります．

第3部は「地球をとり巻く大気から太陽系へ」というテーマで，地球大気内で起こる現象や，太陽系内の天体を扱っています．流星，オーロラ，黄道光，小惑星，彗星（表紙参照）などのスライドからなっています．

第4部は「散開星団・球状星団」で，四季おりおりに見られる散開星団や球状星団などのスライドです．春に見られる M44（プレセペ）や，秋に見られるペルセウス座の二重散開星団などが収められています．

第5部は「銀河星雲・春夏編」で，私たちの住む銀河系の中にあるいろいろな星雲のスライドです．春から夏にかけて見られる干潟星雲や白鳥星雲などの美しい姿の他に，白鳥座網状星雲やS字状暗黒星雲なども含まれています．

第6部は「銀河星雲・秋冬編」で，秋から冬にかけて見られる星雲のスライドです．かに星雲やカリフォルニア星雲，反射星雲 M78，オリオン星雲中のトラペジウムなどが収められています．

第7部は「銀河」です．伴銀河をともなった大きな渦巻きが美しい M51 や，爆発しているように見える M82 など，比較的私たちの銀河系の近くにある銀河から，はるか乙女座の銀河団のスライドへと続きます．

これらの中には，太陽や惑星など明るい天体や高い分解能を必要とする天体は含まれておりません．今後機会があればそのようなスライド集も制作したいと思っています．

このスライド集は，木曽観測所の全面的な協力のもとに，質の高いスライド集にするため一つ一つ丁寧に吟味を重ね，手作りで限定100セットを制作しました．購入ご希望の方はぜひお早めにお申し込み下さい．

（日本天文学会）

* 1セット70枚の一括でのみ頒布します．

☆

「天文学用語集」の改訂について

1．ことの始まり

現行の「天文学用語集」は 1974 年に制定されたもので，しかも，その用語の選定作業は 1956 年に始まり 1960 年に事実上完了していたという．その後の天文学の著しい発展を考えると，理科年表，教科書，一般科学読み物，小説その他が準拠するに足る用語集として維持

するには，改訂は止むを得ない状況と思われる．

文部省の常用漢字表（1981）が適用された用語集も，すでに機械工学，化学，気象学，動物学の4冊が発行されており，改訂のための科研費が交付された学会は1983年から植物（編集中），新言語，1984年から土木，経済，1985年から電気工学，物理（編集中），建築（編集中），1986年から遺伝，歯学，1987年から分光，教育，1988年から天文，法律政治の13学会にわたっている．

天文学会は1988年9月文部省から「天文学用語集」の改訂をする考えの有無を打診された．それを受けて同年10月の理事会で学会から筆者は改訂作業の取り纏めを委任され科研費の代表者になることを依頼された．文部省から学会への話によって，費用は科研費を配分交付，期間は1988年度を含む3年間となった．1988年も年末に近い時期のことでもあり，取敢えず世話人に家正則，神田泰，桜井隆，藤本真克の4人の方々をお願いし，世話人会で検討した結果，研究分担者に，杉本大一郎，小暮智一，小平桂一，松岡勝，松本敏雄，石黒正人，水谷仁，佐藤文隆，坂下志郎，横山紘一，堀源一郎，高窪啓弥，尾崎洋二，清水幹夫，海野和三郎の方々を依頼し世話人を加えて20名の研究班をつくり学会の庶務理事を通じて科研費の申請書を提出した．

作業は用語の (1) 採録，(2) 選定，(3) 吟味，(4) 発音記号表示の記入などからなると考えて，年2～3回の全体会議を開催して進めることにした．

2．用語の採録（1989年1～5月）

多数の用語を並べ換え，抽出，修正を繰り返す作業をするために，用語をパソコンでフロッピイに入力することにした．用語は次の6種類の文献（A～F）から採録した．A. 現行の「天文学用語集」(2500語，入力作業は外注)，B. 中日天文学用語集（2100語，京大宇物），C. 宇宙科学用語集（1900語，東大木曽観測所），D. Astronomy Astrophysics Abstract (2200語，木曽)，E. MacMillan Dictionary (2800語，学会)，F. Annual Review Astronomy Astrophysics (9000語，愛知学芸大，東京学芸大，学会) である．括弧内は入力作業の協力者である．次にそれぞれの用語に分野記号を付けた．この作業には専門知識を必要とするので，泉浦秀行，山岡均，太田耕司，沢武文，水野孝雄，福江純，平井正則及び世話人が行った．

その間3月24日に第一回会議を開いた．出席は科研費の分担者と協力者及び元文部省学術調査官青戸邦夫氏．配布資料は (1)「天文学用語標準化の調査研究」第一次資料，(2) 学術用語制定の経過（青戸 1989），(3) 学術用語集天文学編の序文，前書き，学術用語審査基準，主査の言葉（1974），(4) 学術用語審査基準（学術審議会学術用語分科会 1986），(5) ローマ字による学術用語の書き表し方（文部省大学学術局情報図書館課 1974），(6) 学術用語の標準化と「常用漢字表」の運用（青戸 1983）．

配布資料 (1)「天文学用語標準化の調査研究」第一次資料は，上記文献A～Eの5種類から採録した約11,000の用語をアルファベット順に並べたもので70部印刷した．

3．用語の選定

文献Fは残念ながら第一次資料の印刷には間に合わなかった．4月に文献Fの入力を終わって第一次資料とファイルを合体して約20,000語，重複を除去して約15,000語が残った．ここは杉本氏のお世話になった．更にこれをアルファベット順に並べ換えて，分野毎に分割して，A～C，D～H，I～O，P～Q，S～Zの順に6月から7月にかけて，18名の各専門の方々に依頼して，用語の採否，英語に対応する和語を記入した．18名の分担は，海野（天文一般），堀（天体力学），横山（位置天文），石黒（電波天文），松岡（高エネルギー天文），松本（赤外天文），佐藤（宇宙論），尾崎（恒星物理），山崎篤磨（恒星物理），沢（銀河），石田（銀河系），高窪（星間物質），小平（銀河），桜井（太陽物理），水谷（惑星），清水（太陽系），家（観測機器），藤本（単位，天文学史，星座名），小暮（機関名，学問名，天体名，カタログ，原子分子名），石田（その他）と第一回会議の出席者を中心にして分担した．

今7～8月その結果を世話人のところでパソコン入力して8月25日の第二回会議までに第二次資料に印刷しようと作業を急いでいる．第二次資料は用語をアルファベット順に並べた分冊と，分野別に並べた分冊からなる．両分冊それぞれ120部印刷する予定である．各用語には採（無印）否（×印）の予備的意見も記入して印刷される．採否を決定して用語を選定するまでには，尚暫く時間をかけて検討を加える予定である．

4．用語の吟味

第二次資料の両分冊を各分野で検討して，できれば第三回会議で選定用語をほぼ決めて，1990年3月に第三次資料として印刷して選定用語の素案としたい．最後の1990年度には第三次資料を吟味してまとまったところで「発音記号表示の記入」を行う．1991年3月には科研費の報告書として用語集の改訂版を提出できるようにしたい．

以上用語集の改訂は学会の仕事として，すでに数多くの方々の協力を得て進められている．これからもできるだけ多くの会員の方に御協力をお願いしたいので，関心のある方は，学会事務室の用語集係宛（〒181 三鷹市大沢国立天文台内）に御連絡をいただきたい．

（石田蕙一）